



friendship force
WESTERN TOKYO

西東京クラブ会報

No. 13 2011 JULY



ニューカレドニア渡航特集号



ヌーメアクラブの空港出迎いで全員集合

1) ニューカレドニア渡航のご報告

ED 石井 嗣代

まさに震災に遭われた、宮城クラブとの共同渡航だった。始めはヌメアクラブの限度 15 名を超えそうな勢いだったがいろいろあり、ついに 8 名となってしまった。中止すべきだろうか？と悩んだ時もあったが宮城の森房さんが、行けなかった方々のメッセージを携えて私は行きますと力強い言葉を下さり、後押しされた形になった。ヌメアからはハッピーで忙しい時間を用意しています！と温かいメールをいただき、4 月 9 日、がらんとした成田からガラガラの夜行飛行機で飛び立った。

6 泊の滞在中、船で島に渡ること2回、カルチャーセンター、水族館、博物館など昼間はほぼびっしりの活動が用意され、実にきめ細かくデイホストがプランされて私達を歓迎してくれた。夜は毎晩ディナーホストが用意され、デイホストも交えて10名～20名ほどが会員宅でパーティだ。フランス領だけあってどのお宅もそれぞれに垢抜けたインテリアで、シャンペンとオードブルに一時間、メインとワインで一時間、チーズやデザートと別のワインで更に一時間、いつも長時間で美味しいワインと楽しいおしゃべりや歌などで過ごした。震災への関心は私たちの思った以上に大変高く、チャリティのさまざまな催しが開催されており深く心慰められた。

水遊びの際はそれとなくベテランスイマー達が個々の水泳力を見て、シュノーケルが出来る位まで、出来ない人には付きっきりでさりげなく指導くださり、お蔭さまでツアーのイルデバン3日間は全員シュノーケルで美しい魚の群れを満喫できた。帰国のためヌメアに戻ってホテルに居る私達をまたしてもクラブの方々がもてなしてくださり、買い物や食事にと名残を惜しんで付き合ってくださった。帰りの飛行機もガラガラだったが私たちの心はとても温かいもので満たされていたと思う。

2) 東日本大震災後のニューカレドニア訪問

宮城クラブ 森房 雅子



パーティでの答礼スピーチ

3月11日 私は外出中に地震が起きました。大きな駐車場で大きな車が上下に上がったり下りたりし それから左右に揺れドアのノブにつかまり立つのもやっとでした。

翌日宮城クラブの4人がやむなくニューカレドニア訪問を断念しました。余震が続く中 私も訪問について迷いましたが息子が行くことを進めたのです。電気が点く様になりコンピュータを開くと世界中のフレンドシップの友人からメールが届き勇気付けられました。特に昨年仙台を訪問されたニューカレドニア ヌメアの方々が私たちの訪問を心待ちにされました。西東京クラブの方々と初めてお会いし8時間40分の飛行後 ヌメアの方々から蘭の花のレイをかけていただき花束をプレゼントし再会を喜びました。

仙台と反対の気候で 汗が吹き出てきます。再会を喜び新しい友達と 文化 自然 生活を楽しみました。特に青い海と可愛い熱帯魚そして白い柔らかない砂浜は世界中で1番美しいと思いました。可愛い魚たちと一緒に泳ぎ 又 手作りの料理とダンスパーティーでもてなされ夢のような2週間でした。

3)ニューカレドニアの概要・歴史

佐原 泰子



ヌメア古民家

フランス領ニューカレドニア(Nouvelle-Calédonie)面積は四国とほぼ同じ。人口約25万人。首都はヌメア(Noumea)人口の約4割が集中している。民族構成はメラネシア系44%、フランス人を中心にヨーロッパ系が34%、その他アジア系やタヒチ等々。宗教は主にキリスト教(カトリック9割、プロテスタント2%ほど、など) 現在のメラネシア系の人々は、東南アジア方面から移住してきたようです。やがて西方からポリネシア人も移住してきました。その為 言語も多様で少なくとも27の方言があった。

1774年、イギリス人のクックが西洋人として初めてニューカレドニアを発見します。そもそもニューカレドニアという名前は、クックがグランドテール島の山並みを見て、イギリス北部スコットランド地方の風景に似ているという印象を持ったことに由来していると言われています。スコットランドのローマ時代の旧名はカレドニアでした。イル・デ・パン(松の島)もクックが残した名前だそうです。その後多くの宣教師がこの地を訪れました。

1853年ナポレオン三世によってニューカレドニアはフランス領であると宣言され、同年9月24日にフェヴリエ・デ・ポワント大將が本島北部バラードに三色旗をたてました。フランス領となったニューカレドニアは本国の政治犯などの流刑地ともなりましたが、1887年に処刑制度は廃止され以後はありません。

ニッケル埋蔵量が世界一といわれるニューカレドニアは、19世紀末から世界的なニッケル需要と共に大きく発展し、国内労働者だけでは手が足りなくなった時にやってきたのが主に九州・沖縄から移住した日系移民です。当時住民1800人のうち日本人がなんと1300人ほどいたそうです。しかし第二次大戦時 フランスは連合国側だったため日本人は強制送還され、かれらの財産の殆どが没収されたほか、家族とも生き別れになったそうです。現在でも日本の名字を名乗っている人が珍しくありませんが、このような日系移民の子孫です。

1946年、ニューカレドニアは植民地的な地位からフラ

ンス国外領土として認められます。その結果、人種に関係なく、住民は本国と同等のフランス国籍を持つことになりました。現在のニューカレドニアは、ニッケル鉱業と観光業で成り立ち、フランス共和国の1部でありながら同時に特定の領域に関しては自治権を保持する新たな地位へと発展しています。

4)ヌーメア渡航滞在二日目

虫明 陽子

滞在二日目は、ボートで10分の通称ダックアイランドへ。島一周散策も10分程の小さな島での水遊びを楽しみました。congariお肌のヌメアの皆さんはさすがに泳ぎが達者。教え方も懇切丁寧で、工藤さんも泳げるようになりましたし、健二さんはシュノーケルで少し沖まで出てカラフルな魚に挨拶する程の上達振りでした。かく言う私もシュノーケル初体験で、すっかり夢中に。全然苦しくありませんし、自然と身体が浮き、いつまでも海と一体でいられる感覚です。魚の群れに囲まれた時は、実は密かに「マーメイド姫」の気分で、自分では優雅に漂っておりました。この新鮮な経験は、今回の渡航で一番の収穫かも知れません。



ダックアイランドの美しい海底

5)ヌーメアクラブとの交換を終えて

工藤 澄子

地震、津波、原発の問題もありましたが、宮城西東京合同でED 石井さんに先導され8人で元気に行ってきました。フランスパンのようなグランドテール島にフランス人40%、メラネシア、40%。その他はアジア系でほとんどはカソリックとプロテスタントで、1853年にフランス領になり1998年のヌメア協定により暫時自治領になっていくようです。この島は背骨のような山波が南北を貫き西海岸は雨が少く、東海岸は熱帯雨林で北に世界3位のニッケル鉱山があり、120年前に日本

から600人が鉱山労働者として入り第二次大戦後日本人は強制送還され、現地の妻と家族は離ればなれになり、その後その方達が日本人会を作りお互いに助け合いながら今日迄来られたという事を初めて知りました。当時日本人は敵国人でもあったので、いじめやその他苦労があったと知りました。今回の交換で日本人会の方達とふれあう事が出来、又ヌメアの普通の方達、レストランやエステ店まで売り上げの一部を赤十字に寄付していたり、日本人の友達がいると言う方も多く、日本の外から日本人をどう見ているのかも知ることができました。

今回は震災後初めての交換でした。これから梅雨や台風、余震に怯える日々が続きますが、天国に一番近い島で、優しいヌメアの人々と知り合えたのは新しい宝になりました。会計も虫明さんが快く引き受けて下さり、佐原さんのお母様は二度目の来島になるとかとても懐かしそうでした。

私はヌメアのEDのヒューゲットさん宅に御世話になりました。サンドレスがよく似合うヒューゲットさんは、前ページの左上の写真に写っているように、私が着付けた浴衣姿も似合う、優しい方でした。EDの嗣代さんをはじめ皆さんに助けられ、楽しい思いでいっぱい交換になりました。

6)ヌーメアクラブ渡航印象記

石井 健二

出発時、大震災の影響で閑散とした成田空港で大きな余震もあり、落ち着かない気分でしたが、トンツータ空港に降り立つや、ヌーメアクラブ挙げての熱烈な歓迎を受け、以後終始暖かく・親しく迎えて頂き感激しました。美しい海と空、サンゴ礁、ブーゲンビリヤ、珍しい動植物など豊かな自然を楽しみ、美味しい食事に舌つづみを打ちました。以下、特に印象深かったアメデ島クルーズと食べものについて記します。



ヌーメアのチーズ

アメデ島:ホームステイの最終日、観光スポットとして人気のアメデ島へ全員でクルーズ。ヌーメアクラブからは会長のアイニーさん、小生どものホストで活動的な

スザンナさん(クラブ事務局)、親切でひょうきん、人気もののアルベルト氏など6名が同行。港を出て30～40分、世界遺産のラグーン(サンゴ環礁)沿い、エメラルドグリーン(エメラルド)の海に浮かぶアメデ島に着きます。ホテルもレストランもないが、白砂のビーチ、巨大なアメデ燈台(ナポレオン3世時代の建築物)、豪華なビュッフェランチ、軽快な南国の踊り、ココナツ割り、涼しげなパレオ着衣実演(一帖ほどのカラフルな模様入り、女性用木綿布。)、海水浴・スノーケリング、グラスボートからの魚見物などなど、たっぷり楽しんだ1日でした。

食べ物:ヌメアは南太平洋の中でもグルメの街として知られているそうです。家庭でもレストランでも、エビ(場所によっては伊勢海老も!)、マグロなどの魚介類や牛肉・豚・鶏肉のほか、青パパイヤ、マンゴー、バナナ、鹿肉、ホアグラなど日本ではあまり見かけない材料をふんだんに使った前菜、主菜を楽しみました。味付けは塩味を抑え、ココナツミルクや香辛料を利かせたものが多かった。本場のフランスパンは美味しく、ワイン、チーズも種類が多く選択に困るほどでした。

2011 年総会

山本 文

2011年2月6日(日)11:30～ ホテル ザ・エルシイ 町田 龍皇で、開催されました。

会員19名、新入会員富長健治さん、鈴木澄子さん、西村千織さんを加え、22名の参加がありました。「2010年会計報告、活動報告、2011年会計予算、活動予定」の報告の後、規約改正案が提出され、承認されました。



総会風景テーブル1

主な改正は、会費について、年度途中入会でも、一年分3,000円とすること。また、総会の決議を出席者の過半数をもって決議することです。最後に、2011年度役員が選出されました。会長 柳川善一、副会長 石井健二、顧問 佐原泰子、理事 高垣孝(広報)、竹田敏子(企画)、虫明陽子、山本文(事務局)、会計 村上トシ子、今村佐知子、会計監査 石田充 加藤幸子(敬称略)

関東ブロック会議

石井 健二

本年度のFF関東ブロック会議が6月19日(日)午後1～4時半、浦和コミュニティセンターで開催され、下記など多くの議題・課題について活発に話し合いました。参加者はFFI理事余村さん、FR石井(嗣)さん、埼玉ク(主催)沼会長ら11名、東京ク 渡辺会長ら12名、西東京ク 柳川会長ら6名、合計32名。



ブロック会議風景

- 1 本部理事会報告(トレイルブレイザー計画、W.Smithメダル候補者推薦など)
- 2 2011年交換と今後の展望(渡航は順調だが、受入はキャンセルが多い)
- 3 日本大会主催クラブ(2014札幌ク立候補を歓迎、関東ブロックはスキップ要請する)
- 4 交換の工夫と協力、(ヌメア、プラチスラバ(西東京)、オランダ(埼玉)合同渡航、混成ク受入(埼玉)、到着時出迎えなどについて、情報・意見交換。
- 5 その他:エコ交換計画、震災等被災者支援・チャリティ活動(Tシャツ)、東京ク30周年、埼玉ク20周年(いずれも来年)記念事業。クラブ会費・FFI71の各クラブの現況・扱いなど。



3.11大震災特集

未曾有の3.11大震災の体験談・復興支援・論評等を寄稿していただきました。

1) 鮮やかな緑薫る日本

柳川 善一

宮城クラブ会員をはじめ、3.11に東北地方を襲った大地震と大津波で被災された方々に、心からお見舞いを申し上げます。西東京にとって3.11後初の渡航交換は宮城クラブと共同でニューカレドニアへ、思い切って参加した宮城からの民間大使は、先方のヌメア

クラブに格別大歓迎されました。事実と反する風評の多いなか、通常の交換を通して正しい情報を世界に流すこと、これこそ Friendship Force ならでは出来る活動と実感しました。

今回は特に福島原発事故のために、大勢の無垢な住民が大迷惑を蒙りました。避難者や被災者には気の毒ですが、元来原子力は殺戮のために開発された武器で、日本人は世界唯一の戦争被曝者だから騒いでいるのです。発電などの第二次利用でその放射能という毒を飲んでしまった時の為政者に、科学の進歩を目指す一方で自然への畏敬がどれほどあったでしょう。実は東北には明治 29 年にも大津波が襲い、3 万人近くの人命を失っています。過去の教訓を正しく検証することも為政者のなすべきことです。鮮やかな緑の薫る日本、そこに住む限り日本人はもっと自然への畏敬の念と過去の正しい検証を踏まえて、放射能を含むすべての判断をすべきでしょう。

2) 東京も揺れたあの日

虫明 陽子

3.11 当日は娘の卒業式で新橋におりました。式も終盤、学長先生のご挨拶が始まった時、あの揺れが……。関東大震災を乗り切ったという講堂でしたが、今回も耐えて多くの将来ある若者を守ってくれました。

直後から、皆さんご存知の如く、東京の交通網は完全にマヒし、携帯も繋がらず情報は錯綜、事態の把握も儘ならないまま徒歩で謝恩会場の帝国ホテルへ向かいました。ホテルのロビーは異次元の様相を呈していました。あの帝国ホテルが難民キャンプさながらで、床・通路・階段に座り込む人人。隙間を縫って上階の会場へ進む袴姿の娘達。……と覚えのある話し声が耳に入り、失礼ながら覗き込みますと「榎川会長」様でした。この時は軽く別れたのですが、時が経つにつれ事態の重大さが判明され、夜半に娘と一緒に榎川さんを探しました。お姿を見つけれず案じておりましたが、後日「真夜中に運転再開の満員電車で帰宅。サラリーマン時代が懐かしく、シニアは結構張り切りました」のメールを頂戴し、「先輩諸氏はお元気だ。たぶん日本は大丈夫だろう」などと根拠無く安堵しておりました。その時はまだ本当の現実・日本の問題に直面できていなかった私でした。

3) 大震災当日とその後の私

八塚 住子

3.11。あの日、私は渋谷マークシティの4階の店で遅い昼食を取っていました。そのうち収まるだろうと思った揺れがだんだんひどくなり、コーヒーが踊ってこぼれ、私はテーブルの下へ。でもみなさん落ちついていて、声をあげたり走ったりする人はいませんでした。

私もいれ直してもらったコーヒーを飲んで、予定通り、書道個展のための渋谷のギャラリーの下見を終え、バスで日本橋の表具店へ向かいました。ところが新橋から先は全く動きが取れず、表具店に迎えを頼みました。そのころになって、通りの号外で初めて事態が分かった次第です。結局帰宅難民になり、ホテルのロビーで夜明かしして、翌朝5時過ぎに家に帰り着きました。4月4日から予定していた個展を、6月13日からに延期しました。あしなが育英会に義捐金を送ると同時に振り込み用紙を100枚取り寄せ、友だちに配りました。また6月の個展で、さらに50枚の振り込み用紙を取り寄せ、チャリティコーナーに置いて、そのコーナーの作品販売金の全額をあしなが育英会に送りました。1000人を越す震災遺児の将来を少しでも明るく照らしてあげられたらと思います。



新入会員プロフィール

1) 富長 健治

本年4月より皆様のお仲間に入れて戴くことになりました「富長」と申します。先ず、字を覚えて貰うことが先決だと思って居ります。「富永」と区別するために「とみちょう」と言う方も居られます。よろしくお願い致します。昨年まで、東京クラブに所属し、渡航を数回と何回かのデイホストを致しました。

残念ながら、外国の方をお泊めする環境にはないのですが、代わりにデイホストやその他のお世話をする事で、お返しをしたいと思います。

今、NPOクラブに所属し、神田や横浜には休日の日に使用出来るスペースがあります。それらを使いつつ少しでも友好に寄与したいと思って居ります。

普通の旅行では得られない海外の人との心のつながりや日本文化の紹介の仲間に加えて下さい。

ごちんまりとしたクラブの良さを生かしつつ。

2) 西村 千織

入会のきっかけは公益財団法人国際親善協会で勤務していた時の石井嗣代さんとの出会いでした。石井さんから、FFのいろんなお話をお伺いしているうちに入会もしていないのに会員気分！と、濃い日々を過ごしました。そしてそのまま入会！今後いろんな出会いと体験が待っている事を楽しみにしております。出会いは自分の人生の世界を広げてくれると思っていましたが、誘ってくださった石井さんに感謝いたします。

3) 山崎 恵美子

2001年から1年半ほどアメリカ5州を巡り、アメリカの女性に子育て後の生き方、夢やゴールについてイ



ンタビューしてきました。それを実現することも私の夢の一つでした。滞在中、いろいろな方に助けていただき、FFの存在を知りました。帰国後は自宅でサロンを開きました。今年の6月からは、お料理クラスの企画だけとし、時間もできるだけと予想していました。今度こそ助けていただいた方々に少しでも恩返しができる、FFに参加させていただいたのですが、実際は忙しさに追われています。

現在の趣味は3年前から始めたバラを育てることです。イギリスの庭園巡りをし、帰ってきたばかりです。狭い庭をどうしようかと考えているのが一番楽しいです。

4)永島 美奈子

国際会議や学会用施設運営の仕事に携わって参りましたが、退職し、子育ても一段落したところです。最近目標のない生活にふと虚しさを感じることもしばしばありました。

そんな折、FFの活動をご紹介いただき、眠っていたエネルギーが甦る感じでした。年齢を重ね、より人と密接につながりたいと思うようになったからでしょうか。皆様との出会いも偶然の縁。それを大切に、この活動に携わらせていただけたら幸いです。

5)井出 万里子

1953年 愛知県に生まれる。

結婚を機に東京に住み、早や30年が過ぎようとしています。絵を描き、個展で発表する活動をしており、外国などに行きスケッチをすることが趣味であり仕事です。外国を身近に感じ、明るいお仲間と囲まれてお役に立つことが少しでも出来たらいいなと思い 参加致しました。

6)鈴木 澄子

30年前位に、姉の家にケンタッキーからいらした、二人の婦人を1週間受け入れたときに初めてFFというものがあると知りました。5年後には再三のお招きに皆で行くことができました。その後も数回行くチャンスがありそのつど暖かいおもてなしをうけ楽しい思い出ができました。

この経験を孫達にも伝えたくてFFに入会することにいたしました。現在私は英国流のフラワーアレンジメントを娘と一緒に教えているので、イギリスには毎年のように出掛けていますが、昨年あたりから旅行もちょっと億劫になりました。今年の11月にはお花の会を開く予定がありますので、夏から忙しくなりますが、できる限りアメリカからいらっしゃる方のお手伝いをしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【2011 年後半の活動予定】担当者の敬称略

- ・ 7月7日
味の素工場見学 担当:石井健二、富長健治
- ・ 8月26日～29日
FFI 世界大会 於)ドイツ ハンブルグ
- ・ 9月30日～10月6日
東ワシントン・北アイダホクラブ受入
連絡先:ED 竹田敏子 Tel:042-788-4648
Email:aloha_canada_1002@s9.dion.ne.jp
- ・ 11月19、20日
日本大会 太田・群馬クラブ主催
連絡先:担当 虫明陽子 Tel:042-795-5466
Email:yoko-mushiaki-8lynx@nifty.com
- ・ 12月末日
第14号ニュースレター発行

【2012 年の交換予定】

2012年の交換予定が下記のように決まりました。会員皆様の参加・ご協力の程を切にお願い致します。

- ・ 4月 フランス ビアリッツクラブ受入予定
ED: 石井健二
- ・ 11月 ペルー トルフィーヨクラブ渡航予定
ED: 虫明陽子

【編集後記】

3月11日の東日本大震災及び福島原発事故の直後から、海外のクラブより多くのお見舞いのメールが届き、中には放射能汚染から逃れて、自分の家に来なさいという、親切なお申し出もありました。3.11以降、FF日本の大部分の渡航、受入はキャンセルされましたが、幸い西東京クラブでは、ニューカレドニア渡航は実施され、10月初めの北アイダホクラブからのアンバサダーが来訪することも決まりました。このニュースレターの紙面にも、大震災の影響下での渡航という、苦渋の選択の心境が伺えます。

特に、宮城クラブの森房雅子様には、被災地から渡航に参加されたということで、寄稿をお願いしたところ、快諾していただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

また、今回は虫明陽子様に、この広報の編集を手伝っていただきましたことも、感謝申し上げます。

広報担当: 高垣 孝

編集発行: ザ・フレンドシップフォース・西東京
事務局: 東京都世田谷区上馬 2-37-12-701
棚川 善一

Tel & Fax:: 03-3419-3018

E-mail: w-tokyo@friendshipforce.jp